

# LUCERNO



(Bulteno de la Japana Sekcio de ILEI) n-ro 4 novembro 2011

## Raporto pri La 44a Konferenco de ILEI

**HORI Jasuo**

La konferenco okazis inter la 17a kaj la 23a de julio en Kopenhaga Universitato, Danio.

El Azio partoprenis 5 nepalanoj, 2 indonezianoj, 2 ĉinoj, 1 koreo kaj 1 japano (Hori).

Mi gvidis la japanan lingvon dum Lingva Festivalo, kaj ludis muzikilojn en Internacia Vespero.

Dum la kunsidoj de ILEI kiel la ĝenerala sekretario kandidatiĝis kaj elektiĝis HUANG Yinbao el Ĉinio, kie en 2012 okazos la 45a Konferenco.

La 22-23an de julio okazis Simpozio; “Lingvo de sciencaj komunikado kaj edukado” en la granda salono en la sama konstruaĵo.



# **Raporto pri prelegoj kaj renkontiĝoj**

## **dum la Turneo de HORI Jasuo kaj ARAI Toshinobu**

**2011/09/05-09/25**

Post kiam mi fariĝis estrarano de UEA en 2007, okazis la estrara kunsido en aprilo en 2008. Tiam francaj esperantistoj proponis, ke mi prelegu en Francio, profitante mian vojaĝon al Roterdamo, Nederlando. Mi volonte akceptis tiun proponon kaj vojaĝis en Francio kun s-ro Arai Toŝinobu el Okajama. Miaj prelegoj tre plaĉis al francaj esperantistoj, tial same venis propono en 2009 kaj en 2010. En 2011 mi jam ne estas estrarano, do por iri al Francio mi mem devas pagi por la flugbiletoj. Komence mi decidis ne iri plu al Francio, sed venis mesaĝo el kelkaj homoj, ke francaj esperantistoj ege atendas min, kaj eĉ interkverelas por venigi min. Aŭdante tiujn voĉojn, mi nuligis la antaŭan decidon kaj sendis mian mesaĝon, ke mi iros en septembro. Tiamaniere ĉi-jara vojaĝo al Francio okazis.

En la antaŭaj jaroj miaj prelegtemoj estis koncerto per diversaj nekutimaj muzikiloj, kaligrafio, rilatoj inter Francio kaj Japanio, Hietori-terapijo, kantoj, japanaj gestoj ktp. Tamen tiun ĉi jaron okazis la granda katastrofo en Japanio, tial mi decidis ĉefe prelegi pri tiu temo, kaj por tio mi preparis fotojn (fotojn pri la cunamo kaj rifuĝintoj el gazetoj, fotojn de Mijagi, kiujn mi mem fotis, fotojn de Iŭate, kiujn mi mem fotis, kaj fotojn pri la nukleaj akcidentoj el gazetoj). Ankaŭ s-ro Arai kunportis materialojn pri la katastrofo, kaj por mia prelego li helpis min per sia komputilo por prezenti la fotojn en la ekrano.

Mia prelego pri la katastrofo estis tre sukcesa en ĉiuj 8 urboj, kolektinte pli ol 260. Sarkozy, la prezidanto de Francio, subtenas la atomenergian politikon, pro kio la registaro ne volas, ke la popolanoj havu multajn informojn pri Fukuŝima, tial jam tre malmulte aperas informoj en amaskomunikiloj. Ĉeestantoj en miaj prelegoj kaj demandis min pri la nuna situacio en Fukuŝima, kaj interdiskutis pri la franca situacio. En tiu senco mi kontribuis multe al la revekiĝo de intereso pri la japana situacio.

Samtempe mi petis, ke ili subtenu orfojn en la cunamo, kaj mi povis kolekti 72000 enojn, kiujn mi sendis al lernantoj en la vilaĝo Tooni, la urbo Kamaiŝi.

Mia vizito estis tre fruktoplena. Multaj homoj volas mian revenon al Francio, do ankaŭ en la venonta jaro mi volas viziti ilin.

Jen resume:

### 1. Prelegoj pri la katastrofo

9/9 Beziers (20 homoj), 9/12 La Ciota (40). 9/14 Gap (20), 9/17 Romans (15), 9/19 Grenoble (60), 9/20 Arberville (50), 9/22 Bourg-en-Bress (40), 9/23 Parizo (15)

### 2. Tago de asocioj (same kiel Bunkasai en Japanio)

9/10 La ĉiota, 9/11 Marseille, 9/18 Grenoble,

### 3. Koncerto per muzikiloj

9/12 Marseille (120 lernantoj), maljunulejo en La ĉiota (19 homoj), 9/14 Gap (60 lernantoj)

### 4. Kaligrafio

9/9 Beziers (15 homoj), 9/15 Gap (10 lernantoj), 9.17 Romans (15)

## 第1回 ISOA に参加して belmonto(やましたとしひろ)

今年 2011 年 8 月 13 日(土)~15(月)の日程で、第 1 回 ISOA(ILEI-Seminario en Orienta Azio)が開かれました。会場は天津外国語大学で、宿泊は多くの人が徒歩 10 分のローマホテルだったようです。開会行事のあと、11 コマの講義や模擬授業などがなされ、半日遠足や親睦会・懇親会も楽しみました。日本からの参加は Ricko(藤本律子)とわたしの 2 人、韓国からは 3 人(Ślosilo, Nema, Natura)、そして中国各地から 50 人以上の参加がありました。なにがしかの感銘を受けたものをいくつか紹介しましょう。

### 1 イジュンキ(Ślosilo)『韓国における講座とその教え方』

かれがおこなっているのは、壇国大・円光大・韓国外大での講義と、開設 20 年になるソウルの繁華街ミョンドンに構えるソウル・エスペラント文化センター(SEK)での講座です。SEK での 4 回の講座は 1 回 3 時間の 4 回で終了。その内容は

- 1 回目 発音、人称代名詞、êu 疑問文
- 2 回目 動詞、ki 疑問文、不定詞
- 3 回目 数詞、相関語、条件法
- 4 回目 比較、分詞、関係詞

というカリキュラムに沿って学習します。

かれは、「絶えず」「同じ場所で」「有料で」講座を行うことが重要だと強調します。のちに語りあうなかでいうには、高い家賃を払っても中心街で講座を行うことに意義があり、無料だと「雨が降るから今日はやめよう」なんてことになる。受講料を払っていれば無理をしてでも出てくる。

※先の 2 つの大学には、後の日韓共同開催大会後に同行し、SEK での講座も 8 月に見学し、さらにウイワン市のオントック学校(フリースクール)にも出かけて、いろいろ体験しました。ことに円光大は全羅北道にあり、特急でも 2 時間半かかる距離でした。

### 2 パクヨンスン(Nema)『単語の壁! アジアの学習者はどう乗り越えるか』

文法はやさしく、数か月で学べる。基本語や簡単な文は 1 年前後で学べる。しかしそれから先に進めないのは、単語の壁があるからです。アジア人ははじめて聞いた単語がわかりませんが、欧米人はすぐわかります。似たような語があるからです。語彙体系にも問題があり、似たような鳥に別の名がつけられて呼ばれています。どの語を教えたらいいのか迷います。アジア人が欧米人のようにエスを習得するには、相当の努力が必要です。

※日韓大会のおり「日本ではモクレンとコブシは別の花なのに **magnolio** しかないのは不満がたまるといふ話を耳にしました。アジアに合った語彙体系がないのですね。上の逆の例です。

### 3 やましたとしひろ(belmonto)『ポッドキャスト-はじめかたとその目的』

海外のエス・ラジオ放送を聴いてもさっぱりわからない—これは「エスペラントはやさしいですよ」と宣伝する身には、つらいことです。その理由をさぐれば、

- 1 長すぎる……30 分くらいある
- 2 速すぎる……機関銃のようにことばがとびだすし、エスペラントにない母音や子音で発音するし、思考パターンがヨーロッパ的でよくわからぬ

これに対抗して「初心者を励ます」ために始めたわが **podkasto** 放送でめざすもの:

- 1 短い放送……5 分以内で
- 2 やさしいことばに言い換え……難しいことばとやさしいことばを平行して示す
- 3 はっきりした発音……5 母音で。子音もエス式で。固有名詞を民族語そのままに語らない
- 4 強弱アクセントで……スラブ式の高低アクセント体系(アクセント位置から低くなる)で話す

のをよく聞くが、混乱のもと。(例) POLIcAno でなく poliCAno と(大文字部分を高く)。ZAmehof  
ともよく聞くが、エスのアクセントルールに反するので戸惑う。zaMENhof というべき。

5 アジアの生活を語る…ヨーロッパ中心を脱し、身の回りの生活を語れる語彙を増やしていく  
このあと *podkasto* 放送に必要な技術的なことがらを提示しました。

※10月の日韓共同大会の *festparolo* ではもっと具体的に、生活用語を示し(*rameno* とか *ĉimao*  
とか)、数の単位として *man* を提案しました。のちに *tridek mil ŭonoj* と言ったとき相手が「んー」  
といいながら頭の中で再計算しているのを目撃して、*tri man ŭonoj* なら一発でわかると思いま  
した。

#### 4 コンシャオフオン(Arko)『アジア人はエスを一月で話せるか』

経験からいうと、発音・文法はやさしい。難関は単語です。教える順序は、単語・文法・文・対  
話・練習であり、これがすんだあと、読み・訳はできるが話せないのです。絵を使う方法、直接教  
授法も有効でした。BEK 講座で一月学んだあと、流暢に話すことができるようになったのは若い女  
性1人だけでした。ただ、最初の一週間、初心者には民族語による補足説明が必要でした。

一月でエス語は話せます。ただし、①他のヨーロッパ語を知っている、②若い学生である、③一  
月で120時間学習する、という条件のもとでは、です。

※多くの教師は訳読法をしていることがわかりました。また発音はやさしいといいながら、この  
*seminario* の直前まで学んでいた学生たちの発音はかなり癖がありました。また「某先生に習った  
人たちはみな同じ発音の癖を身につけてしまった」という批判の声も聞こえました。ある子音を脱  
落させる、かなり強烈な癖を持っている学生の発音を矯正しようと試みましたが、かなり難しかっ  
たです。韓国人の癖としては *c* が *ĉ* になること、*z* が *ĝ* になりがちなのですが、*estas*(*estas*),  
*habasu*(*havas*)となってしまうがちなのは日中韓共通のようです。

-----

ここで浮きあがった最大の問題は、アジアの民族語とエス語と単語の類似性がない、ということ  
です。しかもヨーロッパに偏重した多くの語彙が見受けられます。さらにわかりにくくするのは、  
民族語の発音の混入とアクセントです。

「文法はやさしい」と一概に言っても、日韓・中とでは内容に違いがあるように思います。エス  
の伝統的な語順が漢語と同じである点は、漢語話者には理解がしやすい。しかし対格語尾をつける  
点は、日韓話者がわかりやすい。こうした母語の文法を把握したうえでないと、学習者にとっては  
「やさしい」とはならないでしょう。BEK 講座でも民族語の補足が必要であったことが象徴的です。

短い講座の時間でなにを教えるかというシラバスが必要だろうと思われます。SEK での提示の順  
序は大いに参考になります。

この *seminario* で残念だったことは、講義から講義への連続で、討議の時間がまったくなかった  
ことです。講義中に質疑があったのは1つに過ぎません。総括討議もなかったのも、何が問題なの  
かをその場で鮮明にすることができず、問題点の改善を図る方向性が見出せませんでした。ただ、  
いままでそれぞれ活動してきた3か国の ILEI が集まって話しあったことに意義がありましょ  
う。次回はクンミン(昆明)にて開催すること決めました。

(resumo)

Konciza Paporto de la 1-a ISOA en Tjenĉino[Tianjin], Ĉinio, 2011-08-13 ĝis 15.

Ŝlosilo(Koreio) raportis pri gramatika instruordo, kaj emfazis, ke estas grave havi  
kurson konstantan, samlokan, kaj pagan.

Nema(Koreio) raportis pri ekmemor-malfacileco de vortoj, kiuj ne havas similecon  
al aziaj vortoj. Abundas eŭropecaj vortoj ne necesaj al azianoj.

belmonto(Japanio) akuzis esperanto-elsendojn pri troa longeco, malfacila prononco,

kion Esperanto ne havas, kaj eŭropeca pensmaniero; kaj li insistis, ke azianoj klopodu esprimi siajn vivojn en propraj vortoj,

Arko(Ĉinio) konfirmis, ke vortoekmemoro estas la plej malfacila por ĉinoj, kaj ke, azianoj povas ellerni Esperanton en unu monato nur sub kondiĉo, ke tiu jam lernis alian eŭropan lingvon, estas juna studento, kaj devas lerni 120 horojn monate.

---

## 報告 日韓共同開催エスペラント大会での ILEI 分科会

日時：2011年10月8日 15:10~16:40

場所：韓国城南（ソナム）市 セマウル運動中央研修院

参加者：

●日本側 12人

堀泰雄、タニヒロユキ、山川節子、やましたとしひろ、藤本律子、斎木彰、佐々木照央、久保田百合、北川郁子、石川智恵子（以上 ILEI 会員）、沖恵明、石川尚志（以上非会員）

●韓国側 7人

s-ro Lee Jungkee (Ŝlosilo), s-ino SHIN Eun-sook (Songanta), s-ino JEONG Hyeon-Ju (Natura), s-ro PARK Joung-sop (Parko), s-ino PARK Misook (Lasta), s-ino UM Mi-Ryon (Teresa), s-ro YU Pil Geun(Nepre)

内容：

1. 自己紹介

2. 第1回東アジア ILEI セミナー報告

s-ro Lee Jungkee, やましたとしひろ、藤本律子

3. 来年の予定行事について

石川智恵子、s-ro Lee Jungkee

4. 討議

➤s-ino Songanta の話題提供（韓国のフリースクールでのエスペラント授業について）を受けて、活発に意見交換がなされた。（山川節子さんの報告参照）

➤日韓 ILEI 支部同士での今後の協力については、時間不足のため、具体的な議論はできなかった。

Resumo:

Fakkunsido de ILEI-sekcioj de Koreio kaj Japanio okazis la 8an de oktobro, en Komuna Esperanto-Kongreso de Japanio kaj Koreio, en la urbo Seongnam.

Ĝin ĉeestis 12 (10 ILEIanoj kaj 2 ne-ILEIanoj) el Japanio kaj 7 el Koreio. Post sinprezentado, ni interŝanĝis opiniojn ĉefe pri Esperanto-lecionoj en koreaj alternativaj lernejoj raportita de s-ino Songanta. Pro manko de tempo, ni ne povis diskuti pri ontaj kunlaboroj inter la du sekcioj.

石川智恵子/ISIKAWA Tiekko

10月7日～9日、韓国ソウル郊外のソンナムで開催された日韓合同エスペラント大会に参加し、ILEI 分科会に出席しました。分科会は8日午後の時間帯で90分、以下の内容で進行しました。始めに、ILEI の韓国支部代表 LEE Jungkee さんと日本支部代表石川智恵子さんのあいさつがあり、続いて、出席者の自己紹介。一人ひとり、黒板に名前と大会番号を書いてから、自己紹介をしました。韓国のエスペランチストはほぼ全員エスペラントの通称があるのがおもしろいと思いました。例えば、LEE Jungkee さんは Sxlosilo, 他には Natura, Lasta, Parko など。韓国の出席者は 7名、日本からは 12名でした。

次に、8月に中国の天津で開かれた第1回東アジア ILEI セミナーの報告が日本側からは藤本律子さんと山下としひろ(Belmonto)さんから、現地のスライド上映付きでありました。

この後、両国の ILEI が協力してできることを話しあうことになっていましたが、あまり時間もなく、活発な討論にはなりません。しかし、しかたがないことでしょう。日韓合同の初めての分科会で、ここで初めて出会う人たちが多く分科会です。お互い直接、顔を合わせ、各々の活動を知り合えただけで、この分科会を持った意義は十分あると思います。

個人的には、韓国の SHIN Eunsook (Songxanta) さんの活動に大変、興味を持つと同時に刺激を受けました。その名が示す通り、彼女は大きなエスペラントの夢を持ってそれを実現しようとしています。

彼女は alternativa lernejo (オールタナティブ スクール)でエスペラントを17才と18才の2年生の生徒たちに週に1回ずつ教えています。以前には alternativa lernejo の小学校で教師をしていて、通常の教科の他にエスペラントも教えていたそうです。

韓国の alternativa lernejo は日本のフリースクールのような学校らしいですが、大学受験資格もとれるそうです。彼女の話では、韓国には alternativa lernejo が100校以上もあるそうです。

彼女の夢は、学生たちがエスペラントを学んだらすぐに外国に連れて行きたい、彼らはより広いそして平和な世界を実際に見て、そこでエスペランチストとの出会いを通じ、視野を広め、深めることができるだろう、というものです。彼女の活動についてもう少し詳しく知りたくて、日本に帰ってからメールを送ったところ、すぐに返事が返ってきました。ドイツからです。18才の生徒8名を連れてドイツのヘルツベルグに来ているとのこと、他に教師1名も同行。ここのエスペラントセンターの協力を得て、この町に1か月滞在し、その後、フランスに1週間行くそうです。

日韓合同エスペラント大会1日目の夜の Interkona Vespero で彼女のクラスの生徒たちが現代っ子のダンスを披露してくれました。あの若者たちが今はエスペラントの旅をしているのでしょうか。若者たちを連れての彼女の旅の報告が楽しみです。

日本でも同じようなことができないか、彼女の学校の生徒たちが日本への旅をしたら、日本の若者たちにとってもすばらしい出会いが生まれるだろう・・・と私も夢を見始めました。

今年の日韓合同の初めての分科会、日本、韓国、中国3国合同の初めての東アジア ILEI セミナー、そして来年の昆明での ILEI セミナー、ベトナムでの世界大会と、アジアが動き出しているのを実感しています。その動きの中に自分も積極的に加わりたかったことは、今回の分科会参加の一番の収穫です。

## Mia Rikolto el la Komuna Fakkunsido de ILEI en Koreio

Yamakawa Setuko

Mi partoprenis en la Komuna Esperanto-Kongreso de Japanio kaj Koreio, kiu okazis de la 7a gxis la 9a de oktobro 2011 en Seongnam, apud Seulo, Koreio, kaj cxeestis la Fakkunsidon de ILEI. Gxi estis 90minuta kunsido posttagmeze de la 8a kaj okazis kiel jene.

Unue s-ro LEE Jungkee, sekci-estro de Korea ILEI, kaj s-ino ISIKAWA Tiekio, sekci-estro de

Japana ILEI, salutis. Due cxiuj cxeestantoj sinprezentis, skribante sian nomon kaj kongresnumeron sur la nigra tabulo. Mi trovis interesa, ke preskaux cxiuj koreaj esperantistoj posedas sian esperantan nomon. Ekzemple, tiu de s-ro LEE Jungkee estas Sxlosilo, kaj aliaj koreoj Esperante nomigxas Natura, Lasta, Parko, ktp. Cxeestis 7 koreoj kaj 12 japanoj.

Trie, sekvis raportoj pri la 1-a ILEI-Seminario en Orienta Azio, okazinta en Tianjin en auxgusto cxi-jare. De la japana flanko raportis s-ino HUZIMOTO Rituko kaj s-ro YAMASITA Tosihiro ( Belmonto ) per lumbildoj.

Kvare, planita estis diskuto pri kunlaboro inter la du landaj sekcioj de ILEI. Tamen ne okazis aktiva disukuto, parte pro manko de tempo. Pri tio ni ne bedauxru. La komuna kunsido estis organizita la unuan fojon. Do, multaj el ni ne konis unu la alian antauxe. Eble suficxas, ke ni renkontigxis kaj eksciis, kiel ni aktivias en niaj respektivaj cirkonstancoj.

Persone mi interesigxis kaj stimiligxis pri la agadoj de s-ino SHIN Eunsook (Songxanta) el Koreio. Kiel sxia esperanta nomo montras, sxi havas grandan songxon (aux revon), kaj sxi nun realigas gxin.

Nun sxi instruas Esperanton al 17jaragxaj kaj 18jaragxaj gelernantoj unu fojon cxiusemajne en " alternativa lernejo". Antauxe sxi laboris kiel instruisto en elementa "alternativa lernejo" kaj instruis Esperanton kaj aliajn lernobjektojn al junaj geknaboj.

"Alternativaj lernejoj" similas al "liberaj lernejoj" en Japanio, sed koreaj alternativaj lernejoj rajtas kvalifiki lernantojn kiel kandidatojn al universitatoj. Trovigxas pli ol 100 alternativaj lernejoj en Koreio laux s-ino SHIN.

Sxia revo estas vojaĝxi eksterlanden kun siaj lernantoj. Sxi esperas, ke pere de Esperanto la junuloj povos vidi pli vastan kaj pacan mondon, kaj ke ili havos pli vastan kaj profundan vidpunkton, renkontante fremdlandajn esperantistojn. Mi volis pli bone scii pri sixaj laboroj, kaj mi sendis ret-leteron al sxi post kiam mi revenis al Japanio. Tuj venis sxia respondo, el Germanio! Sxi nun estas en Herzberg, Germanio kun siaj 18jaragxaj lernantoj kaj alia instruisto. Kun la helpo de Esperanto-centro de la urbo, ili restos tie por unu monato, kaj poste en Francio por unu semajno.

Cxe la Interkona Vespero, gaja vespera evento, okazinta en la vespero de la unua tago de la Komuna Esperanto-Kongreso, sxiaj lernantoj prezentis modernan dancon. Ili ja nun vojaĝxas kun Songxanta, uzante Esperanton! Mi atendas sxian raporton pri la vojaĝxo.

Cxu eblos efektiviĝi la saman Esperanto-edukadon en Japanio? Se sxiaj lernantoj vizitos Japanion, ankaux japanaj junuloj havos bonegan sxancon konatigxi kun ili. Tian revon mi mem ekhavas.

Cxi-jare okazis la 1-a komuna fakkunsido de ILEI inter Japanio kaj Koreio kaj la 1-a ILEI-Seminario en Orienta Azio inter Japanio, Koreio kaj Cxinio. En la venonta jaro okazos la 2-a ILEI-Seminario en Orienta Azio en Kunming, Cxinio kaj la UK en Vjetnamio. Tiuj faktoj certigas min, ke ekmovadas Azio. Por mi la plej valora rikolto el la Fakkunsido okaze la Kongreso estas la deziro aktive partopreni en tiu movado.

# Esp-kurso de Ikedakita-Supermezlernejo 2004/09~2011/07

raportas (s-ino) HUGIMOTO Ricko 藤本律子(instruisto en Japanio)

## 1. Antaŭparolo

En Japanio, la ministerio pri edukado, kulturo kaj scienco, decidas lern-objektojn en oficialaj lernejoj. Esperanto ne ekzistas inter ili. Ekde la jaro 2000, unuopaj lernejoj povas aldoni iom da propraj lern-objektoj.

Ikedakita-Supermezlernejo estas tute ordinara lernejo, kiun fondis la gubernio Osaka(8.84milionoj). En aprilo ĝenerale eniras 240 gelernantoj en lernejon, kies plejmulto aĝas 15, kaj ili lernas 3 jarojn. Kaj la 3a gradanoj povas elekti la kurson “Internacia Kompreno”, kiu inkluzivas Esperanto-kurson.

## 2. Kion celas nia kurso “Internacia Kompreno”(Kompreni alilandajn homojn kaj kulturojn)

Nia lernejo kreis ĉi kurson, por ke lernantoj povis havi pli vastan vidpunkton kaj riĉigi sian vivon post kompreno de alilandaj homoj kaj kulturoj. Instruistoj unue pensis ke rigardi najbarajn landojn estas grave. En la gubernio Osaka loĝas ĉirkaŭ 130mil koreoj(133,336 personoj/2009) kaj ĉirkaŭ 48mil ĉinoj(48,155 /2009). Tial la korea lingvo kaj la ĉina lingvo estis elektitaj. Sekve ili aldonis Esperanton, kiu povas kovri ceterajn tutlandojn.

En la lerneja-jaro 2005 aprile, oficiale komenciĝis la kurso “Internacia Kompreno”, kiel unu el elekteblaj kursoj por la 3a gradanoj, kies aĝo estas 17 aŭ 18. Tiun elektis 16 lernantoj. Por tiu kurso 4 gvidantoj kunlaboris. Lernantoj povis elekti 2 lingvojn el 3, nome la ĉina lingvo, la korea lingvo kaj Esperanto. Dum 1 jaro kursanoj ricevis 73 horan lernadon kaj akiris 3 studpoentojn post tutjara lernado kaj sukceso de ekzamenoj regule okazigitaj en nia lernejo.

Unu jaron antaŭe okazis prov-instruado, kaj 21 elektis nove naskitan kurson. Ili lernis la korean lingvon kaj Esperanton, respektive duonjaron. En septembro, 2004, kiam unufoje okazis Esp-kurso, mi estis dungita kiel Esp-gvidanto.

## 3. Konkrete ĉi tiel...

En la antaŭa duonjaro okazas ĉirkaŭ 35 hora kurso de 2 lingvoj paralele. En Japanio komenciĝas lerneja-jaro en aprilo kaj finiĝas en marto. Denaska lingvano de la ĉina lingvo gvidas sian lingvon kaj mi instruas Esperanton. Same kiel tiu, en la lasta duonjaro okazas ĉirkaŭ 35 hora kurso. Denaska lingvano de la korea lingvo gvidas sian lingvon kaj mi instruas Esperanton. Regulaj ekzamenoj ankaŭ okazas post lernado.

En nia kurso sub titolo de “Internacia Kompreno” ne mankas kunlernaj lecionoj. Ĉiuj kursanoj spertas kuiradon de ĉina hejm-menuo( ĵiaozioj) kaj korea hejm-menuo(ĉizimi, korea pico). Iujare kursanoj kelkhorajn lernis ludi tradiciajn muzik-instrumentojn de Koreio kaj prezentis ludadon septembre en la tago de la lerneja kultur-festo. Programo varias laŭjare.



**Por enkonduko, ni ĝenerale uzas kelkajn paĝojn de libreto ” Invito al Internacia Lingvo Esperanto”**, kiun eldonis JEI(Japana Esperanto Instituto). Poste en sekvaj lecionoj ni penas prezenti vivajn scenojn de la lingvo.

Pere de neŭtrala kaj facile lernebla lingvo Esperanto, ni klopodas havigi al la lernantoj internacian guston kaj vastan perspektivon trans landlimoj.

**Ni kombinas jenajn manierojn laŭ kapablo de niaj lernantoj.**

**<< 8 karakterizaĵoj de nia kurso >>**

**1. Kanto** ĉe la komenco, “Kanto de ABC”

**2. Ludoj**

\*Ni trejnigis kalkuladon uzante memfaritajn lernilojn, kiam ili lernis nombrojn. Mi skribis ciferojn sur rondaj ventumiloj. Kaj montrante tiujn ilojn, ili reciproke ĝuis facilan kalkuladon: plus, minus, oblo kaj divido.

\*En la lasta leciono por progresigi parol-kapablon, ili ĝuis vojaĝ-ludon: nome ĵetante etankubon, sur kies 6 surfacoj ciferoj 1-6 estas skribitaj. Ĉe halt-loko oni devas demandi al aliaj kolegoj leginte jam skribitan frazon. Aliaj devas respondi.

**3. Interrerta kurso**

\*Per komputiloj en la lernejo ni kelkfoje spertis interretan kurson(“Kurso de Esperanto”).

**4. Intervjuo al gastoj el alilandoj**

**5. Interŝanĝo de karto**

**6. Interreta korespondo**

**7. Video-lernilo “Mazi en Gondolando”**

**8. Simpla teksto kaj vortaro kun desegnaĵoj**\*Foje ni utiligas paneletojn de kolorigitaj esegnaĵoj

### **3. Nombro de lernantoj**

**En la lastaj 7 jaroj preskaŭ 100 lernantoj ricevis duonjaran Esp-kurson** kaj ili travivis ke nia lingvo Esperanto efike funkcias kiel komuna lingvo inter diversaj popoloj.

\* Tabelo: nombro de lernantoj laŭ jaroj

<b>jaro (aprile)</b>	enirantoj al nia lernejo	ekslernantoj	la 3a gradanoj	kursanoj de “Internacia Kompreno”	<b><i>Kursanoj de Esperanto</i></b>
<b>2004</b>	280 (2002)	22	258	21	<b>21</b>
<b>2005</b>	240 (2003)	23	217	16	<b>16</b>
<b>2006</b>	240 (2004)	25	215	16	<b>12</b>
<b>2007</b>	215 (2005)	40	175	9	<b>5</b>
<b>2008</b>	239 (2006)	54	184	14	<b>13</b>
<b>2009</b>	240 (2007)	29	211	15	<b>11</b>
<b>2010</b>	240(2008)	56	184	19	<b>12</b>
<b>2011</b>	240(2009)	50	190	11	<b>8</b>
	279(2010)				
	124(2011)				

Rimarko: Super-mezlernejo estas ne devigata lernejo. En la gubernio Osaka(ĉ.1900 kvadrataj kilometroj kaj 8800 mil loĝantoj) ekzistas 303. ( 1 ŝtata, 198 guberniaj kaj 104 privataj, laŭ dokumento 2006)

## 5. Ĝisnunaj gastoj al nia lernejo el diverslandoj

Dank' al alilandaj gastoj, kiuj afable vizitis nian lernejon, ni povis havi intervjuan kurson. Tiu sperto impresis la lernantojn neforgeseble. Ĉiu el lernantoj povis rekte intervjui al la gasto laŭ demando preparita per si mem. Intervjua kurso plej ofte okazis post dek-kelkhora lernado.

< **Gasto** al Intervjua Kurso de IKEDAKITA-Supermezlernejo >

1. 2004 11/1 s-ro Jakvo Shram el Belgio
2. 2004 11/22 f-ino Duong Ti Kieu el Vjetnamio kaj s-ro Hylco Miedema el Nederlando
  - Ekster lecionoj, 18jara rusa pianisto, Andrei Korobeinikov ankaŭ havis muzikan interrilaton ĉefe kun la lernantoj de muzika kurso.
  - En la jaro 2003 septembre f-ino Nguyen Thanh Nga, el Hanojo, Vjetnamio vizitis nian lernejon en la tago de lerneja kultur-festo.
3. 2005 11/1 ges-roj SONA el Germanio
4. 2006 4/19 s-roj Roger Grilo kaj Mauro (braziloj) el Hispanio
5. 2006 7/19 s-ro Leo Sakaguchi (denaska Esperantisto) el Germanio
6. 2006 10/19 s-ro Ho Song el Koreio
7. 2007 8/23 s-ino Aparecida de Souza Araujo el Brazilo
8. 2008 4/22 s-ino Sylvie Roques el Francio
9. 2008 10/9 s-inoj Ingrid (Chuang Ying-hua) kaj Flora (Chen Pei-pei) el Tajvano
10. 2009 10/13 ges-roj Sachs el Germanio
11. 2009 11/24 gefianĉoj Alice kaj Cedric el Francio
12. 2010 6/8 s-ro Wang Tianyi el Ĉinio
13. 2010 8/31 s-ino Ivonne Sima el Germanio
14. 2011 6/23 s-ino Nguyen Thi Phuong (Flama Floro) el Vjetnamio

## 6. Ĝisnunaj interesanĝoj de retmesaĝoj kaj poŝtkartoj

Ĉiuj lernantoj havas sian ret-adreson en nia lernejo. Uzante komputilojn de nia lernejo ni povas komuniki rete kun esperantistoj (Bedaŭrinde oni ne povas utiligi skajpon en nia lernejo.)

Jarfine niaj lernantoj rete sendis kristonaskajn kartojn uzante hejmpaĝon de Rovaniemi, Finnlando. Ankaŭ poŝte ni plurfoje interesanĝis novjarajn kartojn kun lernantoj en Tajvano.

Tiuj, kiuj favore kaj fervore subtenis nian kurson, estis plej ofte instruistoj aŭ gvidantoj de Esperanto. Precipe en la jaro 2007 s-ro Fabien Thcsudy en Francio ret-korespondis kun ĉiuj lernantoj. En la jaro 2009, 2010 kursanoj de la lasta duonjaro ret-korespondis kun kanadaj gejunuloj, kiujn gvidis s-ro Jean Codjo. En 2011 kursanoj de la antaŭa duonjaro ret-korespondis kun hungaraj lernantoj, kiujn gvidis s-ino Baloghne Fodor Eva .



Landoj de korespondantoj

Aŭstralio / Belgio / Bulgario / Brazilo / Britio / Ĉinio / Ĉeĥio / Danio / Francio / Finnlando / Germanio / Hungario / Indonezio / Kanado / Koreio / Nepalo / Novzelando / Pollando / Rusio / Tajvano / Usono / Vjetnamio

## **7. Impresoj de lernantoj**

< Impresoj de lernantoj en 2005 > pri intervjuo kurso kaj ret-korespondo

\* Mi surpriziĝis aŭdinte ke s-ro SONA preskaŭ tuton memlernis je lernado de Esperanto. Renkontiĝo kun paro (germana edzo kaj japana edzino) impresis min ke internacia geedziĝo per Esperanto estas tre bona.

(post duonjara lernado)

\* Renkontiĝo kun ges-roj SONA estis vere bona. Mi demandis esperante post mallonga lernado, kaj fariĝis ĝojplena, kiam mi povis kapti konatajn vortojn en parolo de s-ro SONA. Mi forte deziris paroli plu kaj aŭskulti plu. Estontece mi volas vastigi mian mondon kun plua lernado de Esperanto kaj multaj renkontiĝoj.

(post 15 hora lernado)

\* Nun sendi ret-mesaĝon Esperante al s-ro Bradley en Novzelando estas mia plej ŝatata afero. Por mi estas malfacile sendi ret-mesaĝon en Esperanto, sed kiam mi ricevis respondon, mi estis tre ĝoja. Mi ĝojas ke la ricevinto de mia ret-letero komprenis la enhavon, kvankam mia leg-kapablo estas ankoraŭ malgranda. Mi volas skribi multajn aferojn, sed mi ankoraŭ ne eblas traduki ilin en Esperanton, nek kompreni respondon per mia propra kapablo, do mi volas altigi mian kapablon.

(post 20hora lernado)

< Impresoj de lernantoj en 2007 > pri Esperanto-kurso

\* Al mi plaĉis ke prononco de Esperanto estas facila, ĉar unu litero havas unu sonon. Tiu diferencas de la angla lingvo. Por mi estas malfacile multigi vortojn, sed interŝanĝi retmesaĝojn kun alilandanoj estis tre ĝoje. Ekkoni aliajn landojn kaj homojn estis grave kaj mi komprenis ke Esperanto estas utila komunikilo.

(post duonjara lernado)

\* Estis surprizo ke dum duonjara kurso ni havis ŝancon korespondi rete kun alilandanoj. Tiu estis valora sperto por mi.

(post duonjara lernado)

\* Antaŭ ol eklerni Esperanton, mi pensis ke Esperanto nur utilas en malmultaj landoj, sed post duonjara lernado mi rimarkis ke ni havis ŝancon komuniki kun diversaj landanoj rete. Tiu fakto forte impresis min.

(post duonjara lernado)

## **8. Neordinara sperto en 2007 ( la tria jaro)**

Inter 9 lernantoj troviĝis 1 handikapulo, kiu vizitadis lernejon per rul-lito kun necesaj aparatoj. Li ne havis voĉon pro aparato je gorgo.

En aprilo ni apartigis 2 grupojn. Kaj 8 lernantoj eklernis la ĉinan lingvon kaj handikapita junulo sola eklernis Esperanton(30 horojn)

La junulo suferis gravan malsanon, nomatan “vertebrara muskola atrofio, tipo unu”. Baldaŭ post naskiĝo, lia malsano aperis tiel, ke li malfacile englutis aĵon, malfacile spiris, kaj morto minacis lin. Li ricevis operacion kaj post tio li devis munti artefaritan ilon por spirado. Lia manĝo, kiu estis likvaĵo kun nutra kemiaĵo, eniris lin tra tubo. Ĉar lia gorĝo tenis ilon por spirado, li ne povis elvoĉigi .

Spite de tiu kondiĉo, li vizitadis lernejojn(elementa/meza/supermeza) entute 12 jarojn per lul-lito kun necesaj aparatoj, asistate de multaj volontuloj. Eĉ sur rul-lito, en kuŝanta pozicio, li ricevis lecionojn. Li respondis per palpebrumo por esprimi “jes” aŭ “ne”.

Por li video-lernilo “Mazi en Gondolando” estis utila. Ĉar li havis vid-povon kaj aŭd-povon, li povis ĝui gajan atmosferon de tiu video.

## ILEI 関係 今後の予定

### ◆第 45 回 ILEI 大会

日時： 2012 年 7 月 20 日～26 日

場所： 中国雲南省昆明市

\*大会終了後、バス、列車を乗り継ぎ、ベトナムのハノイでの UK(7 月 28 日～8 月 4 日) に参加するツアーが組まれる予定。

La 45a ILEI-Konferenco

dato: la 20a - 26a de julio, 2012

loko: Kunming, Cxinio

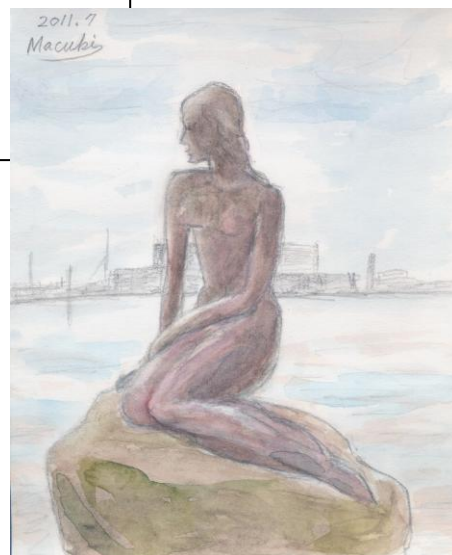
\* post la konferenco, oni planas karavane iri al Hanojo por la 97a UK (la 28a de julio - la 4a de aŭgusto).

### ◆第 2 回東アジア ILEI セミナー ( I S O A )

第 45 回 ILEI 大会の中で分科会形式で開催予定

La 2a ILEI-Seminario en Orienta Azio

okazos kiel fakkunsido dum la 45a ILEI-Konferenco.



☆ LUCERNO に原稿をお寄せ下さい。

☆ 会員相互の意見交換や情報交換に ILEI-JP のメーリングリストをご活用下さい。

ILEI-JP 代表 石川智恵子 [isksanjo@ff.e-mansion.com](mailto:isksanjo@ff.e-mansion.com)  
ILEI-JP 機関紙編集 松木義信 [myoshi@abelia.ocn.ne.jp](mailto:myoshi@abelia.ocn.ne.jp)